

は じ め に

平成20年度の環境リモートセンシング研究センター・シンポジウムを、平成21年2月23日に開催しました。本シンポジウムは毎年開催し、共同研究成果の発表と評価を行い、この機会を利用して今後の研究方針の議論と策定を行う事をおもな目的としております。平成20年度の共同利用研究成果発表では、口頭発表20件、ポスター発表17件の申し込みをいただきました。

平成20年度の共同利用研究は前年度に引き続いて、プロジェクト研究と一般研究から構成されています。プロジェクト研究は、

- (1)「衛星データによる地球表層環境変動の実態把握とその要因解析」、
- (2)「衛星データによるユーラシア大陸の植生3次元構造の変遷を中心とする表層・植生・土地被覆変動の研究とデータ解析・処理手法・検証データ観測手法の研究」、
- (3)「衛星データと地上観測ネットワークによる放射収支の評価と大気パラメータの長期変動」、
- (4)「地域社会に役立つリモートセンシングの実現—多様な空間情報のシナジーによる社会基盤情報の発信—」、
- (5)「未来を切りひらく新しいリモートセンシングの展開」、

の主要な五つの課題で、本年度も活発な共同研究を通じて成果を上げて頂きました。

また、平成20年度の10月から発足した寄附研究部門による

- (6)「地球温暖化と気象・海洋情報の活用」

の新課題を加えさせていただき、新しい課題への取り組みも掲載しました。

本冊子は、多くの方に成果をご覧いただくため、発表会での講演・ポスター発表の内容を提出していただき、資料集として編集したものです。この資料集の内容は、また、環境リモートセンシング研究センターのホームページにも掲載しております。

本共同研究において、衛星データや幅広い環境に関するデータを活用したリモートセンシングの研究活動を行い、成果発表を通じてご協力を頂いた研究者の皆様に感謝いたします。

今後、個々の研究が大いに発展し、センターの共同研究がますます活性化することを確信しております。さらに、学術研究の推進体制に関連して、皆様のご協力を共同利用・共同研究の推進へと活用させていただきたいと考えております。

平成21年3月31日

環境リモートセンシング研究センター
センター長 西尾 文彦